

# 特別養護老人ホームでの ADL改善の取り組み

浜松十字の園

介護職員：鈴木達也

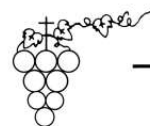
機能訓練指導員：中澤卓磨

# 目次

---

- 1.浜松十字の園の紹介
- 2.対象者について
- 3.取り組みの内容
- 4.評価・評価結果・統合と解釈
- 5.目標設定・支援内容立案
- 6.支援実施の結果
- 7.考察
- 8.今後の取り組み
- 9.まとめ

# 浜松十字の園の紹介



## 十字の園の紹介

### 法人理念

「夕暮れになっても光がある」

「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」

十字の園は日本で初めて特別養護老人ホームを開設した法人で、静岡県内に複数の高齢者向けの介護施設や障がい者施設を運営しています。寄り添う姿勢を大切にし、ご利用者一人ひとりのその人らしい生活を支援しています。



浜松



御殿場

伊東&  
伊豆高原



松崎



# 対象者について

氏名	H様(77歳、男性)
介護度	要介護4
住環境	特別養護老人ホーム入所
既往歴	R5.2脳出血 脳梗塞2回 高血圧 糖尿病
受傷前の生活・性格	病前は、屋内外独歩。ADL全般自立。 人と話すのが好き。 野球中継をテレビやラジオで楽しんでいた。
入所前の心身の状況	脳出血により、左上下肢重度麻痺。回復期リハビリテーション病院に入院していた。日常生活全般において介護が必要。意欲が無く、原因不明の痛みを訴える事もある。左麻痺が残り思うように動かなくなった体を悲観し、自殺を企てる可能性もある。 ※入所前にナースコールを首に巻き付ける行為みられる。(入院中の病院からの情報)
入所時のADL	食事：中等度介助 排尿・排便管理：全介助 (トイレの訴えはみられる) ベッド移乗：全介助 トイレ移乗：全介助 (ベッド上での排泄) 浴槽移乗：全介助 (機械浴で入浴) 歩行：全介助 ※FIMで評価
主訴	「生きていても仕方ない」 「死にたい」

# 取り組みの内容

主訴	「生きていても仕方がない」「死にたい」
問題点	入所前の経緯から、自殺を企てる可能性がある



自尊心の回復を目的とした取り組みが必要



評価



目標設定



支援立案

上記3ステップを踏み、支援を実施していく事とした

# 評価



どうして悲観的な発言や行動がみられるのだろうか？

どうやったら前向きな生活が送れるだろうか？



## ①ICF活用

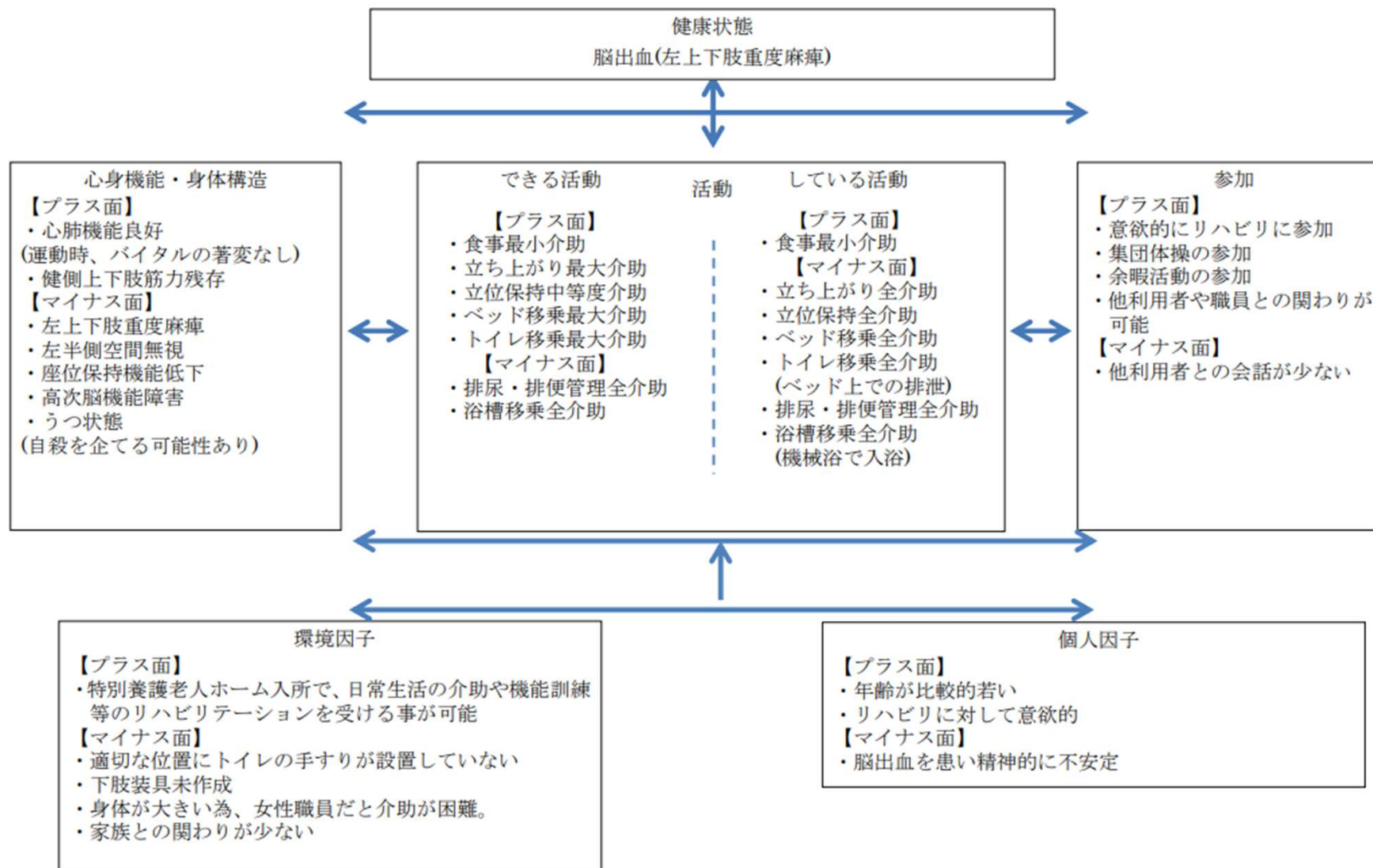
本人様の生きる全体像の把握

## ②ひもときシートの活用

本人様の課題言動・行動に対し、  
本人様の立場に立ち分析を行う

# ICF整理シート

# ICF 整理シート




# ICF評価結果

## 「主のプラス面」

- ・ 良好な心肺機能
- ・ 患側上下肢を代償出来るレベルの健側上下肢の筋力が残存
- ・ 立ち上がり最大介助(できるADL)
- ・ 立位保持中等度介助(できるADL)
- ・ トイレ移乗最大介助(できるADL)
- ・ リハビリの参加に意欲的

## 「主のマイナス面」

- ・ 左上下肢重度麻痺
- ・ うつ状態で自殺を企てる可能性がある
- ・ ベッド上での排泄(しているADL)
- ・ 適切な位置にトイレの手すりがない
- ・ 下肢装具の未作成



麻痺症状の大きな改善は難しいが、  
トイレでの排泄は実施できるようになる可能性がある



# ひもときシート

## A 課題の整理 I あなた(援助者)が感じている課題

事例にあけた課題に対して、あなた自身が困っていること、負担に感じていることを具体的に書いてください。

- ・脳出血受傷後、左上下肢重度麻痺が生じる。日常生活において介護が必要な状態。左麻痺が残り思うように動かなくなった体を悲観し、自殺を企てる可能性もある。  
※入所前にナースコールを首に巻き付ける行為みられる。
- ・「生きていても仕方ない」「死にたい」という発言がみられる。

## B 課題の整理 II あなた(援助者)が考える対応方法

①あなたは本人にどんな「姿」や「状態」になってほしいですか。

- ・思うように動かなくなった体を悲観せず、明るく元気に過ごして欲しい。

②そのために、当面どのようなことに取り組んでいこうと考えていますか？あるいは、取り組んでいますか。

- ・本人様の話を傾聴し、少しでも元気づける必要がある。

1)病気の影響や、飲んでいる薬の副作用について考えてみましょう。

- ・左上下肢重度麻痺
- ・左半側空間無視
- ・高次脳機能障害
- ・うつ病

2)身体的痛み、便秘・不眠・空腹などの不調による影響を考えてみましょう。

- ・麻痺側の痛み
- ・麻痺側の動かしづらさ
- ・車椅子座位での臀部の痛み
- ・不眠
- ・オムツ装着による、尿意・便意の喪失

3)悲しみ・怒り・寂しさなどの精神的苦痛や性格等の心理的背景による影響を考えてみましょう。

- ・身体が思うように動かず辛い
- ・何も出来なくなってしまい辛い
- ・排泄はベッド上でのオムツ交換で辛い
- ・オムツだと思えるように排便が出来ない

4)音・光・味・におい・寒暖等の五感への刺激や、苦痛を与えていそうな環境について、考えてみましょう。

- ・多床室・共同トイレを使用して、他者の声掛けに反応し、悲観的な発言や急な動き出しがみられる

### C 課題に関連しそうな本人の言葉や行動を書き出してみましょう

あなたが困っている場面(Aに記載した内容)で、本人が口にしてきた言葉、表情やしぐさ、行動等をありのままに書いてください。

- ・「生きていても仕方ない」
- ・「死にたい」
- ※入所前にナースコールを首に巻き付ける行為がみられる

(5)家族や援助者など、周囲の人の関わり方や態度による影響を考えてみましょう。

- ・同居していた彼女がいたが、死去している。
- ・こんな身体になって、人付き合いは出来ない

6)住まい・器具・物品等の物的環境により生じる居心地の悪さや影響について考えてみましょう。

- ・下肢装具が無く、立ち上がりにくい
- ・適切な位置にトイレの手すり無く、立ち上がりにくい
- ・適切な位置に浴室の手すり無く、立ち上がりにくい

7)要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティ(活動)とのズレについて考えてみましょう。

- ・受傷前は自分の事は自分で行っていたのに、急に出来なくなって辛い
- ・受傷前はトイレで排泄出来たのに、いきなり出来なくなって辛い
- ・話す事が好きだが、「こんな身体では人付き合いは難しい」という、悲観的な感情が生じ上手く話す事ができない

8)生活歴・習慣・なじみのある暮らし方と、現状とのズレについて考えてみましょう。

- ・自分の事は自分で行う事が出来ていたのに、急に出来なくなってしまった
- ・風呂は好きだったが、人の手を借りて、寝ながら入浴するのが辛い

## D 課題の背景や原因を整理してみましょう

思考展開エリアに記入した内容を使って、この課題の背景や原因を本人の立場から考えてみましょう。

- ・身体が動かなくなった結果、身の回りの事が何も出来なくなってしまった事に悲観している。

## E 「A課題の整理 I」に書いた課題を本人の立場から考えてみましょう

「D 課題の背景や原因の整理」を踏まえて、あなたが困っている場面で、本人自身の「困り事」「悩み」「求めていること」は、どのようなことだと思いますか。

- ・身の回りの事は、自分でできるようにしたい。

## F 本人にとっての課題解決に向けてできそうなことをいくつか書いてみましょう

このワークシートを通じて気づいた本人の気持ちにそって①今できそうなことや②試せそうなこと③再度の事実確認が必要なこと等をいくつか書いてみましょう。

- ・麻痺症状の大きな改善は難しいが、残存機能の活用や、装具・手すりなどの環境調整を行う事で、トイレでの排泄を目標にする事は出来ると考えられる。トイレでの排泄が可能になる事で、自尊心が回復し、課題言動・行動が減少し、前向きな気持ちで日常生活を送る事が出来るのではないかと考えられる。

# ひもときシート評価結果

## 「課題言動・行動」

- ・生きていてもしかたない
- ・死にたい
- ・入院中にナースコールを首に巻き付ける行為がみられる

## 「課題言動・行動の主要因」

- ・身体が思うように動けなくなった
- ・身の回りの事が自分で出来ない
- ・うつ状態
- ・おむつだと思いうように便が出ない
- ・ベッド上での排泄が辛い
- ・身体的問題で人付き合いが出来ない
- ・人の手を借りなければならない



自分で思うように動けなくなった事で、精神的負担が生じ、  
課題言動・行動が生じている可能性がある

# ICF・ひもときシートの評価 結果からの統合と解釈

- 麻痺症状の大きな改善は難しいが、残存機能を活かし、トイレでの排泄が可能になる事で、課題言動・行動が減少する可能性がある



目標設定・支援内容立案へ

# 目標設定・支援内容立案

目標

長期目標：自尊心の回復ができる  
短期目標：トイレでの排泄ができる



支援内容

機能訓練指導員と協働で支援内容の立案を行った

生活リハビリ(介護士担当)	機能訓練(機能訓練士担当)	環境調整	参加
ベッド移乗訓練	関節可動域訓練	装具作成	集団体操参加
トイレ移乗訓練	筋力強化訓練	手すりの設置	リハビリ参加
起立・立ち上がり訓練	歩行訓練	シーティング	

# 支援実施の結果 【トイレでの排泄が可能に】

生活リハビリ(介護士担当)	機能訓練(機能訓練士担当)	環境調整	参加
ベッド移乗訓練	関節可動域訓練	装具作成	集団体操の参加
トイレ移乗訓練	筋力強化訓練	手すりの設置	リハビリの参加
起立・立ち上がり訓練	歩行訓練	シーティング	



心身機能の向上や環境・参加に介入する事で、ベッド上での排泄から、一人介助にてトイレでの排泄が可能となった

# 支援実施の結果【心身機能の変化】

入所時	入所後
麻痺側下肢の筋収縮が乏しい	麻痺側下肢の筋出力向上
体幹・健側上下肢筋力良好	体幹・健側上下肢筋力が更に向上
心肺機能良好	心肺機能が更に向上
原因不明の全身の疼痛	原因不明の全身の疼痛消失 (カロナールの内服が中止となった)
FIM 表出：4 社会的交流：3 問題解決：2 記憶：3	FIM改善 表出：5 社会的交流：5 問題解決：4 記憶：5
貧血 「赤血球数」：381.00 「血色素量」：11.70 「ヘマトクリット」：35.40	貧血改善 「赤血球数」：477.00 「血色素量」：14.70 「ヘマトクリット」：44.10

心身機能の向上



# 支援実施の結果【ADLの変化】

ADL	入所時	入所後
食事	最小介助	修正自立
ベッド移乗	全介助 (二人介助)	最小介助 (一人介助)
トイレ移乗	全介助 (ベッド上での排泄)	最小介助 (トイレでの排泄)
歩行	全介助	最大介助 (平行棒)
浴槽移乗	全介助 (機械浴での入浴)	全介助 (個浴での入浴)
排尿・排便管理	全介助	監視

7:完全自立 (時間、安全性含め)	5:監視	3:中等度介助 (患者自身で50%以上)	1:全介助 (患者自身で25%未満)
6:修正自立 (補助具使用)	4:最小介助 (患者自身で75%以上)	2:最大介助 (患者自身で25%以上)	

※しているADLを評価する為、評価ツールとしてFIMを使用(最高得点126点)

# 支援実施の結果【ADLの変化】



ADL全般の向上

先行研究

全国の回復期リハビリテーション病棟における、退院前後でのFIM向上の平均得点23.2点



# 支援実施の結果【心理的变化】

入所時	入所後
<p>【悲観的な発言】</p> <p>「死にたい」 「生きていても仕方ない」 「こんな身体では生きていけない」 「こんな身体じゃ人付き合いは無理だな」 「人の手を借りて、寝ながら入浴するのが辛い」</p>	<p>【前向きな発言】</p> <p>「もっとリハビリを頑張って、歩けるようになりたい」 「自殺したいと思う事は無くなった」 「以前より楽しい事が増え希望が出た」 「いろいろ出来る事が増えて嬉しい」 「皆に助けてもらっているし、頑張らなきゃ」 「またこうして風呂に入れるのは嬉しい」</p>
自分の身体状況に悲観し、他者との会話が少ない	同席の方と話をする機会が増えた
気分にもムラがあり、ADL動作の介助量にもムラがある	トイレでの排泄が可能になった事をきっかけに、意欲・自立心が向上し、ADL全般が向上した

老年期うつ病評価尺度：8点  
(最終評価のみ実施、10点以上がうつ状態)

自尊心の回復

# 考察

生活機能訓練・環境調整・参加の促し



短期目標：トイレでの排泄達成

トイレでの排泄が可能になった事をきっかけに意欲・自立心の向上がみられた

ADL全般向上

前向きな発言の増加

他者との関わりの増加

## 長期目標：自尊心の回復達成

病院での医学的リハビリテーションにより獲得した基盤を活かしながら、時間を掛けた生活機能訓練、環境調整、参加の促しなどのあらゆる手段を講じる事で、トイレでの排泄が可能となり、その結果「自尊心の回復」に繋げる事ができたと考える。今では、リハビリで、出来る事が増える事を楽しみに生活をされている。

# 今後の取り組み

- 今後も、状態変化に合わせて、ICF・ひもときシートを活用し、その時の状況に合った最適な個別的支援を実施できるようにしていく
- 日常生活の中で、気づき・観察する事で潜在的なニーズを抽出し、そこから多職種協働する事で、より効果的な支援を、届けるようにしていく

## 新しい目標

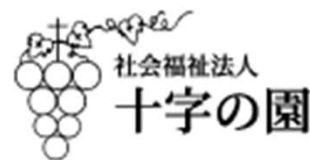
長期目標：行動範囲が増える  
短期目標：車椅子自走ができる

## まとめ

- ICFやひもときシートを活用し、個別的支援を提供する事で、ベッド上での排泄から、短期目標であるトイレでの排泄が可能となり、意欲・自立心の向上がみられた。そして、その事をきっかけに、心身機能・ADL全般が向上し、長期目標である自尊心の回復を認める事ができた。
- 特別養護老人ホームでは、病院で送ってきた生活をそのまま継続するのではなく、例え不治であろうとも、「尊厳の回復」を目指し、「自立支援」を心掛ける必要がある。
- 浜松十字の園における、リハビリテーションは、リハビリ職による機能回復訓練に限らない。介護職を中心に、多職種協働しながら、あらゆる手段を講じる事で、利用者様の潜在する能力を最大限に発揮させ、日常生活の活動を高め、社会参加を獲得し、その自立を促すものである。

法人理念

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、  
生きる希望を創ります



浜松十字の園

私たち十字の園の職員は、利用者一人ひとりの尊厳の保持に努め、その人らしい生活が送れるように、人生を共に歩んでいききます。